

## ものづくり企業のための宇宙科学研究会（仮称）発足について

相模原市産業振興財団は J A X A 宇宙科学研究所と中小企業の連携する研究組織について 11 月中をめどに発足する予定です。これは、南西フォーラムの分科会として立ち上げるもので、地元企業の宇宙産業参入や、J A X A 研究者との共同研究・開発も視野に入れて連携を深める目的で実施し、宇宙航空研究開発機構（J A X A）からの技術移転を使い、企業の商品開発を促進することや、宇宙分野の研究開発に必要な機材や治具等を参加企業に発注することなどを目的に、宇宙科学研究所の研究者と企業との定期的な勉強会や商談会などを実施していく予定です。

詳しい日程や会場は未定ですが、決定次第当財団HPやメールマガジンにてお知らせをさせていただきます。

メールマガジン購読希望は[こちら](#)

## JAXA の技術 中小育成に活用

### 『相模原で連携組織』製品受注も促進

相模原市が出資する相模原市産業振興財団は、JAXA 宇宙科学研究所（相模原市）と中小企業の技術開発支援などで連携する研究組織を立ち上げる。取引先の生産拠点の海外シフトが進み産業構造が変化するなか、宇宙分野の研究・開発に必要な機材を参加企業に発注したり、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の技術移転で新商品を企業が開発したりできるようにする。



11 月をめどに「ものづくり企業のための宇宙科学研究会」（仮称）を発足させる。参加企業は 30 社以上を目標とし、製造業が集積する相模原市や町田市のほか、県央地域の中小企業などに広く参加を呼びかける。



研究会には宇宙研の研究者らが参加し、企業と定期的な勉強会や商談会などを開く予定だ。宇宙研は宇宙探査ロボットや火星飛行機などの研究・開発を手がけており、研究に必要な機器などを地元企業に発注する仕組み作りを目指す。

同財団は「地元企業の宇宙産業参入や JAXA 研究者との共同研究・開発も視野に入れて連携を深めたい」としている。研究・開発の場には中小企業を支援する相模原市の第三セクター、さがみはら産業創造センターのインキュベーション施設も活用する。宇宙研の広報を務める阪本成一教授は「研究に必要な部品などを加工業が集積する相模原の企業に発注することができれば、納期短縮などのメリットが出てくる」と話す。

一方、JAXA の宇宙関連技術の民間企業への移転も進めたい考えだ。JAXA ではこれまでにロケット先端部の開発過程で生まれた断熱材技術を応用した建築用断熱塗料や、宇宙下着の技術から汗のにおいなどを大幅に減らす下着などを企業と共同開発してきた実績がある。JAXA の特許や技術を応用した商品開発も進める方針だ。

JAXA 相模原キャンパスがある相模原市は、「宇宙」をテーマとした地域振興や産業活性化に取り組む。昨年 10 月に東京ビッグサイトで開かれた「東京国際航空宇宙産業展」では JAXA と初めて共同出展するなど、連携を強めている。

(日本経済新聞 9月6日(木)より)